

大学名：国立大学法人 宮城教育大学

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します（加盟に関する相談も含む）	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	2022年7月申請の柴田町立槻木小学校、2023年3月申請の東北学院中学校・高等学校の加盟申請の相談に応じることができた。2022年12月申請の山形西高等学校は、2023年7月に対応した。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	申請校でチャレンジ期間の学校が2校、キャンディデート校が3校あるので、それらの学校を実際に訪問して支援している。とくに、昨年度はユネスコ本部への登録についての英文作成支援をした。また、加盟している学校にむけて、個別の学校支援を行ったり、教員の校内研修や、教育委員会主催の研修に協力している。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムや、ユネスコスクール東北ブロック大会を開催して、ESD/SDGs についての学習会や、生徒の研究発表会を開催している。2023年12月23日（土）には、「2023年度ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会」を開催した。東北各地から小中高等学校あわせて13校の児童生徒が、探究型学習・課題研究の発表を行うとともに、11件のポスター展示があった。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムや、教育委員会、各学校主催の研修会や学校訪問を通して、大学の資源を活用して、資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなどを行うことができた。すべて要請ベースである。熱心な地域や学校とそうでない地域や学校がある。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	大学からは ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムが主催する研修会を2回開催した。また、宮城県気仙沼市教育委員会や福島県只見町のユネスコスクール、などと協力して、地域で研修会やワークショップを開催することができた。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	大学の資源を活用し、外部機関とも連携しながら、学校や地域で実践事例や教材やモデルプロジェクトを開発し、推進している。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	東北地方 ESD 活動支援センターと共同で活動しており、東北地方 ESD 活動支援センターが主催し、地域のステークホルダーが参加する研修会でユネスコスクールの活動について紹介している。ただし、ESD/SDGs の普及啓発を目的としており、ユネスコスクールの告知広報であるとはいえない、
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダー	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムおよび東北地方 ESD 活動支援センターの研修会にユ

	クホルダーとを結びつけることができた。	ネスコスクールが参加していただくことで、学校や地域のステークホルダーを結びつける機会としている。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	熱心に活動している教育委員会と連携が継続している。東北地方 ESD 活動支援センターのご支援のもと、青森大学 SDGs 研究センターや山形大学、岩手県立大学等とともに活動する場面はあるが、大学間の連携を促進しているとは言えない。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	ESD for 2030 の国際会合や、国内外の学会において、地域のユネスコスクールの実践から得られた成果について報告発表した。ただし国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの意義について広く知らせることができたとはいえない。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム内で、地域を越えた学校間交流が展開している。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	アメリカで提案された Global School Community にユネスコスクールへの参加を呼びかけた。地域のユネスコスクールにおいては海外からのゲスト（教職員、学生、研修生等）を引率して複数回交流を行った。
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	「2023 年度ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会」の開催を学内で行っている。また「国際理解教育概論」などでユネスコスクールについて学ぶ時間を設定している。しかし、大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができたとはいえない。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	学部必修科目「学校防災教育基礎」、「総合的な学習の時間の指導法」選択科目「国際理解教育概論」「多文化教育総合演習」教職大学院専門高度化基盤科目「地域協働と学校づくり」選択科目「グローバル教育課題」などで、ユネスコスクールの研究成果を取り込みながら、ESD/SDGs についての教育を行っている。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）の主催する「変容を捉え、変容につながる評価のモデル ～SDGs 時代を生きる学校教員からの提案～」に参加させていただいたことや、ESD 関係の科学研究費を獲得したことにより、教育評価や成果の検証に関する調査研究活動を行うことができた。
	④ その他	

6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	岡山大学のユネスコチェアとしての活動や調査研究に参加させていただく機会が数多くあった。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	国内では、ASPUnivNet の岡山大学と協力し、ユネスコスクールを対象とした気候変動に関する質問紙インタビュー調査を行った。また地域のユネスコスクール関連研修会にご参加いただいた。
	③ その他	